

作成年月日	平成 28 年 9 月 20 日
作成部局課室名	企画県民部広報課広聴室

県民モニター「第2回アンケート調査」結果概要

1 調査概要

- (1) 調査テーマ：「地球温暖化対策と総合治水の取組について」
- (2) 調査結果の活用策：
今年度末策定予定の地球温暖化に対する「適応策基本方針(仮称)」の検討資料とするほか、今後の総合治水や農業・農村の多面的機能に関する施策展開に活用する。
- (3) 調査対象者：県民モニター2,248人
- (4) 調査期間：平成28年7月13日(水)～27日(水)[15日間]
- (5) 調査方法：県ホームページ上のアンケートフォームに入力
- (6) 回答者数：1,600人(回答率71.2%：過去7番目の高さ)

<参考一対象者及び回答者属性>

		対象者	回答者	回答率
総数		2,248	1,600	71.2%
性別	男性	1,121	856	76.3%
	女性	1,127	744	66.0%
年代別	10～20代	148	75	50.7%
	30代	293	163	55.6%
	40代	448	300	67.0%
	50代	429	303	70.6%
	60代	496	402	81.0%
	70代以上	434	357	82.2%

※参考：本年度第1回の回答率79.4%（過去最高）

2 調査結果の概観

項目	アンケート結果(主な意見)	結果の考察																						
温暖化の影響について	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現れていると思う</td> <td>94.3%</td> </tr> <tr> <td> そう思う</td> <td>(66.1%)</td> </tr> <tr> <td> どちらかといえば、そう思う</td> <td>(28.2%)</td> </tr> <tr> <td>現れていると思わない</td> <td>4.4%</td> </tr> <tr> <td> どちらかといえば、そう思わない</td> <td>(3.4%)</td> </tr> <tr> <td> 全くそう思わない</td> <td>(1.0%)</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>1.3%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	現れていると思う	94.3%	そう思う	(66.1%)	どちらかといえば、そう思う	(28.2%)	現れていると思わない	4.4%	どちらかといえば、そう思わない	(3.4%)	全くそう思わない	(1.0%)	わからない	1.3%	地球温暖化の影響が「現れている」と思う人の割合が94.3%となり、極めて多くの人々が地球温暖化の影響が現れていると思っていることがうかがえる。						
区分	割合																							
現れていると思う	94.3%																							
そう思う	(66.1%)																							
どちらかといえば、そう思う	(28.2%)																							
現れていると思わない	4.4%																							
どちらかといえば、そう思わない	(3.4%)																							
全くそう思わない	(1.0%)																							
わからない	1.3%																							
影響が現れていると思う事象について ※前問で、影響が「現れていると思う」と答えた人に質問	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>気象の変化(猛暑日の増加、暖冬、積雪量の変化、集中豪雨や大型台風の増加等)</td> <td>96.4%</td> </tr> <tr> <td>水害の増加(洪水氾濫、土砂災害、浸水被害等)</td> <td>68.5%</td> </tr> <tr> <td>海面上昇による低地の高潮被害や水没</td> <td>44.1%</td> </tr> <tr> <td>熱中症患者の増加</td> <td>39.7%</td> </tr> <tr> <td>水産物の漁獲量や魚種の変化</td> <td>38.6%</td> </tr> <tr> <td>農作物の収穫量や品質の変化</td> <td>33.5%</td> </tr> <tr> <td>熱帯性の感染症の増加</td> <td>32.8%</td> </tr> <tr> <td>植物の生育の変化(サクラの開花や紅葉の時期等の変化)</td> <td>31.7%</td> </tr> <tr> <td>昆虫や草花等、身近に見られる動植物の種類の変化</td> <td>31.1%</td> </tr> <tr> <td>渇水による水不足</td> <td>24.5%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	気象の変化(猛暑日の増加、暖冬、積雪量の変化、集中豪雨や大型台風の増加等)	96.4%	水害の増加(洪水氾濫、土砂災害、浸水被害等)	68.5%	海面上昇による低地の高潮被害や水没	44.1%	熱中症患者の増加	39.7%	水産物の漁獲量や魚種の変化	38.6%	農作物の収穫量や品質の変化	33.5%	熱帯性の感染症の増加	32.8%	植物の生育の変化(サクラの開花や紅葉の時期等の変化)	31.7%	昆虫や草花等、身近に見られる動植物の種類の変化	31.1%	渇水による水不足	24.5%	気象の変化から影響を感じている人が96.4%と最も多い。そのほかには、「水害の増加(68.5%)」と「海面上昇による低地の高潮被害や水没(44.1%)」が多くなっており、自然災害から地球温暖化の影響を感じる人も多い。
区分	割合																							
気象の変化(猛暑日の増加、暖冬、積雪量の変化、集中豪雨や大型台風の増加等)	96.4%																							
水害の増加(洪水氾濫、土砂災害、浸水被害等)	68.5%																							
海面上昇による低地の高潮被害や水没	44.1%																							
熱中症患者の増加	39.7%																							
水産物の漁獲量や魚種の変化	38.6%																							
農作物の収穫量や品質の変化	33.5%																							
熱帯性の感染症の増加	32.8%																							
植物の生育の変化(サクラの開花や紅葉の時期等の変化)	31.7%																							
昆虫や草花等、身近に見られる動植物の種類の変化	31.1%																							
渇水による水不足	24.5%																							
将来大きく現れることが心配な現象について	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水害の増加(洪水氾濫、土砂災害、浸水被害等)</td> <td>61.1%</td> </tr> <tr> <td>農作物の収穫量や品質の変化</td> <td>46.5%</td> </tr> <tr> <td>熱帯性の感染症の増加</td> <td>45.0%</td> </tr> <tr> <td>渇水による水不足</td> <td>35.6%</td> </tr> <tr> <td>海面上昇による低地の高潮被害や水没</td> <td>31.1%</td> </tr> <tr> <td>水産物の漁獲量や魚種の変化</td> <td>23.6%</td> </tr> <tr> <td>熱中症患者の増加</td> <td>19.6%</td> </tr> <tr> <td>昆虫や草花等、身近に見られる動植物の種類の変化</td> <td>9.7%</td> </tr> <tr> <td>植物の生育の変化(サクラの開花や紅葉の時期等の変化)</td> <td>5.8%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	水害の増加(洪水氾濫、土砂災害、浸水被害等)	61.1%	農作物の収穫量や品質の変化	46.5%	熱帯性の感染症の増加	45.0%	渇水による水不足	35.6%	海面上昇による低地の高潮被害や水没	31.1%	水産物の漁獲量や魚種の変化	23.6%	熱中症患者の増加	19.6%	昆虫や草花等、身近に見られる動植物の種類の変化	9.7%	植物の生育の変化(サクラの開花や紅葉の時期等の変化)	5.8%	「水害の増加(61.1%)」が最も多く、自然災害に及ぼす影響を懸念している人が多いことがうかがえる。そのほか、「農作物の収穫量や品質の変化(46.5%)」、「熱帯性の感染症の増加(45.0%)」の2項目についても40%以上の人が選択しており、将来的な影響を心配していることがうかがえる。		
区分	割合																							
水害の増加(洪水氾濫、土砂災害、浸水被害等)	61.1%																							
農作物の収穫量や品質の変化	46.5%																							
熱帯性の感染症の増加	45.0%																							
渇水による水不足	35.6%																							
海面上昇による低地の高潮被害や水没	31.1%																							
水産物の漁獲量や魚種の変化	23.6%																							
熱中症患者の増加	19.6%																							
昆虫や草花等、身近に見られる動植物の種類の変化	9.7%																							
植物の生育の変化(サクラの開花や紅葉の時期等の変化)	5.8%																							

<p>地球温暖化対策として重要と思うこと</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>太陽光発電・風力発電など再生可能エネルギーの導入拡大</td> <td>72.9%</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素を吸収する森林の整備</td> <td>67.1%</td> </tr> <tr> <td>企業での省エネ設備導入や節電対策</td> <td>63.4%</td> </tr> <tr> <td>家庭での省エネ家電の利用や節電対策</td> <td>56.9%</td> </tr> <tr> <td>公共交通の利用促進やエコドライブ(アイドリングストップ等)の推進</td> <td>50.3%</td> </tr> <tr> <td>雨水の再利用などの治水対策</td> <td>46.1%</td> </tr> <tr> <td>ダム、河川、防潮堤等の整備や防災訓練などの水害対策</td> <td>37.3%</td> </tr> <tr> <td>エコスタイル(夏の軽装)、うち水など生活様式の改善</td> <td>26.9%</td> </tr> <tr> <td>高温でも枯れたり品質が落ちたりしない農作物の品種の開発・普及</td> <td>26.5%</td> </tr> <tr> <td>熱中症対策</td> <td>20.8%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>特になし</td> <td>0.2%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	太陽光発電・風力発電など再生可能エネルギーの導入拡大	72.9%	二酸化炭素を吸収する森林の整備	67.1%	企業での省エネ設備導入や節電対策	63.4%	家庭での省エネ家電の利用や節電対策	56.9%	公共交通の利用促進やエコドライブ(アイドリングストップ等)の推進	50.3%	雨水の再利用などの治水対策	46.1%	ダム、河川、防潮堤等の整備や防災訓練などの水害対策	37.3%	エコスタイル(夏の軽装)、うち水など生活様式の改善	26.9%	高温でも枯れたり品質が落ちたりしない農作物の品種の開発・普及	26.5%	熱中症対策	20.8%	わからない	0.5%	特になし	0.2%	<p>「太陽光発電・風力発電など再生可能エネルギーの導入拡大(72.9%)」と答えた人が最も多く、「二酸化炭素を吸収する森林の整備(67.1%)」も多くなっている。多くの人が、二酸化炭素の排出削減や吸収が地球温暖化対策として重要であると認識していることがうかがえる。</p> <p>また、回答した人が50%を超えた項目は、全て温室効果ガスの排出削減や吸収に繋がる対策(緩和策)、50%以下の項目は、全て温暖化の影響に備える対策(適応策)となっている。</p> <p>適応策よりも緩和策が重要と認識している人が多くなっている。</p>
区分	割合																											
太陽光発電・風力発電など再生可能エネルギーの導入拡大	72.9%																											
二酸化炭素を吸収する森林の整備	67.1%																											
企業での省エネ設備導入や節電対策	63.4%																											
家庭での省エネ家電の利用や節電対策	56.9%																											
公共交通の利用促進やエコドライブ(アイドリングストップ等)の推進	50.3%																											
雨水の再利用などの治水対策	46.1%																											
ダム、河川、防潮堤等の整備や防災訓練などの水害対策	37.3%																											
エコスタイル(夏の軽装)、うち水など生活様式の改善	26.9%																											
高温でも枯れたり品質が落ちたりしない農作物の品種の開発・普及	26.5%																											
熱中症対策	20.8%																											
わからない	0.5%																											
特になし	0.2%																											
<p>地球温暖化対策としての「緩和策」と「適応策」の認知度</p>	<p>【「緩和策」の認知度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知っている</td> <td>53.3%</td> </tr> <tr> <td>知らない</td> <td>46.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※緩和策:地球温暖化対策のうち、温暖化の進行を食い止めるために二酸化炭素等の温室効果ガスの排出を抑制する対策</p> <p>【「適応策」の認知度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知っている</td> <td>37.5%</td> </tr> <tr> <td>知らない</td> <td>62.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※適応策:地球温暖化対策のうち、温暖化の影響にあらかじめ備えておく対策</p>	区分	割合	知っている	53.3%	知らない	46.7%	区分	割合	知っている	37.5%	知らない	62.5%	<p>「緩和策」という言葉については「知っている」が53.3%となった。前問では、温室効果ガスの排出を抑制する対策が重要であると考えている人の割合が高かったが、「緩和策」という言葉自体の認知度は約5割に留まる。</p> <p>一方、温暖化の影響にあらかじめ備える「適応策」については「知っている」が37.5%となり、「緩和策」よりも認知度が低くなっている。</p> <p>地球温暖化の対策として「緩和策」と「適応策」の認知度が上がり、両者がバランス良く取り組まれるように、今後、個々の取組とあわせて普及啓発を図っていく必要がある。</p>														
区分	割合																											
知っている	53.3%																											
知らない	46.7%																											
区分	割合																											
知っている	37.5%																											
知らない	62.5%																											

項目	アンケート結果(主な意見)	結果の考察																					
総合治水の認知度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28.7</th> <th>H26.6</th> <th>H26.1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言葉も内容も知っている</td> <td>18.0%</td> <td>13.7%</td> <td>6.7%</td> </tr> <tr> <td>言葉は知っているが、内容は知らない</td> <td>28.8%</td> <td>48.4%</td> <td>27.4%</td> </tr> <tr> <td>知らない</td> <td>53.3%</td> <td>37.9%</td> <td>65.8%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H28.7	H26.6	H26.1	言葉も内容も知っている	18.0%	13.7%	6.7%	言葉は知っているが、内容は知らない	28.8%	48.4%	27.4%	知らない	53.3%	37.9%	65.8%	<p>「言葉も内容も知っている(18.0%)」の割合が、前回・前々回よりも高くなったが、20%未満に留まっている。また、「知らない(53.3%)」が半数を超えており、今後は、不特定の人が多く集まる場所などでのPR活動や学校での防災学習カリキュラムと連携した普及活動の実施など、より多様な場を活用した広報活動を実施する必要がある。</p>					
区分	H28.7	H26.6	H26.1																				
言葉も内容も知っている	18.0%	13.7%	6.7%																				
言葉は知っているが、内容は知らない	28.8%	48.4%	27.4%																				
知らない	53.3%	37.9%	65.8%																				
<p>「総合治水」を知った媒体</p> <p>※前問で、「言葉も内容も知っている」「言葉は知っているが、内容は知らない」と答えた人に質問</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28.7</th> <th>H26.6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新聞記事</td> <td>50.1%</td> <td>35.8%</td> </tr> <tr> <td>行政(国、県、市町)の広報パンフレット</td> <td>49.5%</td> <td>57.9%</td> </tr> <tr> <td>テレビ・ラジオ</td> <td>31.3%</td> <td>16.0%</td> </tr> <tr> <td>インターネット</td> <td>25.4%</td> <td>21.7%</td> </tr> <tr> <td>イベント(講習会、出前講座等)</td> <td>7.8%</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>ポスター</td> <td>3.3%</td> <td>4.5%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H28.7	H26.6	新聞記事	50.1%	35.8%	行政(国、県、市町)の広報パンフレット	49.5%	57.9%	テレビ・ラジオ	31.3%	16.0%	インターネット	25.4%	21.7%	イベント(講習会、出前講座等)	7.8%	-	ポスター	3.3%	4.5%	<p>前回より「新聞記事(50.1%)」や「テレビ・ラジオ(31.3%)」と答えた人が増えている。これは県民にも分かり易い総合治水の取組のPR(模型実験型の出前講座の実施など)により、マスメディアにも取り上げられる機会が増えたためと思われる。引き続き、積極的な情報提供を行い、マスメディアに取り上げてもらう機会を増やしていく。</p> <p>また、「行政の広報パンフレット(49.5%)」についてもほぼ半数を占め、各種イベント等でのパンフレット配布効果がでていることがうかがえることから、引き続き広報パンフレット等を効果的かつ積極的に利用した広報活動を行っていく必要がある。</p>
区分	H28.7	H26.6																					
新聞記事	50.1%	35.8%																					
行政(国、県、市町)の広報パンフレット	49.5%	57.9%																					
テレビ・ラジオ	31.3%	16.0%																					
インターネット	25.4%	21.7%																					
イベント(講習会、出前講座等)	7.8%	-																					
ポスター	3.3%	4.5%																					
水害に備え自分や家族を守るために活動すべき主体	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28.7</th> <th>H26.6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自分や家族</td> <td>42.4%</td> <td>54.6%</td> </tr> <tr> <td>市町など身近な自治体</td> <td>27.3%</td> <td>21.2%</td> </tr> <tr> <td>国や県など広域的な自治体</td> <td>19.1%</td> <td>6.4%</td> </tr> <tr> <td>町内会や自治体、水防団など地域の団体</td> <td>10.1%</td> <td>16.1%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>1.3%</td> <td>1.6%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H28.7	H26.6	自分や家族	42.4%	54.6%	市町など身近な自治体	27.3%	21.2%	国や県など広域的な自治体	19.1%	6.4%	町内会や自治体、水防団など地域の団体	10.1%	16.1%	わからない	1.3%	1.6%	<p>4割以上が、「自分や家族(42.4%)」の問題として捉えているものの、前回調査よりも低い結果となった。</p> <p>一方で、「市町など身近な自治体(27.3%)」、「国や県など広域的な自治体(19.1%)」など、行政に期待する割合が高くなっている。</p> <p>今後も、行政の取組周知に努めつつ、個人でできる取組事例の紹介など、よりの確な情報提供をすることにより、県民自らが自主的に取り組む意識を啓発していく必要がある。</p>			
区分	H28.7	H26.6																					
自分や家族	42.4%	54.6%																					
市町など身近な自治体	27.3%	21.2%																					
国や県など広域的な自治体	19.1%	6.4%																					
町内会や自治体、水防団など地域の団体	10.1%	16.1%																					
わからない	1.3%	1.6%																					

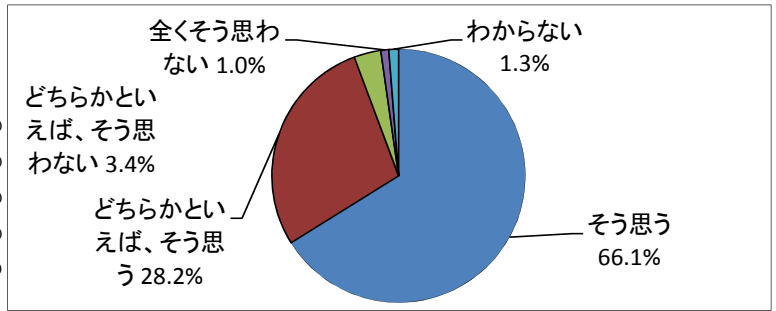
<p>自分でしている「総合治水」の取組</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>洪水ハザードマップや避難経路等の事前確認</td> <td>63.3%</td> </tr> <tr> <td>降雨時における河川の水位・カメラ画像や避難勧告等の確認</td> <td>29.8%</td> </tr> <tr> <td>何かしたいが、どうすればいいかわからない</td> <td>15.9%</td> </tr> <tr> <td>水害に備えた保険(兵庫県のフェニックス共済)への加入</td> <td>15.6%</td> </tr> <tr> <td>何もしていない</td> <td>13.4%</td> </tr> <tr> <td>大雨を想定した防災訓練への参加</td> <td>10.4%</td> </tr> <tr> <td>雨水をためる設備(家庭用雨水貯留タンクなど)の設置</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td>洪水時でも浸水しないために行う建物のかさ上げ等</td> <td>6.5%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	洪水ハザードマップや避難経路等の事前確認	63.3%	降雨時における河川の水位・カメラ画像や避難勧告等の確認	29.8%	何かしたいが、どうすればいいかわからない	15.9%	水害に備えた保険(兵庫県のフェニックス共済)への加入	15.6%	何もしていない	13.4%	大雨を想定した防災訓練への参加	10.4%	雨水をためる設備(家庭用雨水貯留タンクなど)の設置	6.5%	洪水時でも浸水しないために行う建物のかさ上げ等	6.5%	<p>「洪水ハザードマップや避難経路等の事前確認(63.3%)」が最も多く、平常時から一定の防災意識を持っていることがうかがえる。次いで「降雨時における河川の水位・カメラ画像や避難勧告等の確認(29.8%)」が2番目になっており、避難に関する取組が上位を占めている。</p> <p>加えて、「何かしたいが、どうすればいいかわからない(15.9%)」「何もしていない(13.4%)」が合わせて3割程度あることから、今後も総合治水の自主的な取組の推進や防災意識の醸成を図る必要がある。</p>								
区分	割合																											
洪水ハザードマップや避難経路等の事前確認	63.3%																											
降雨時における河川の水位・カメラ画像や避難勧告等の確認	29.8%																											
何かしたいが、どうすればいいかわからない	15.9%																											
水害に備えた保険(兵庫県のフェニックス共済)への加入	15.6%																											
何もしていない	13.4%																											
大雨を想定した防災訓練への参加	10.4%																											
雨水をためる設備(家庭用雨水貯留タンクなど)の設置	6.5%																											
洪水時でも浸水しないために行う建物のかさ上げ等	6.5%																											
<p>「総合治水」を進めるために必要な行政の支援</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校や自治会での防災学習会・出前講座の実施</td> <td>52.1%</td> </tr> <tr> <td>防災訓練の実施</td> <td>48.8%</td> </tr> <tr> <td>雨水貯留タンク設置等に対する助成制度</td> <td>39.8%</td> </tr> <tr> <td>イベントなどでの啓発ポスター掲示やチラシの配布</td> <td>37.3%</td> </tr> <tr> <td>行政機関(庁舎)などにある貯留施設の見学会</td> <td>20.3%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>5.8%</td> </tr> <tr> <td>何も必要がない</td> <td>0.8%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	学校や自治会での防災学習会・出前講座の実施	52.1%	防災訓練の実施	48.8%	雨水貯留タンク設置等に対する助成制度	39.8%	イベントなどでの啓発ポスター掲示やチラシの配布	37.3%	行政機関(庁舎)などにある貯留施設の見学会	20.3%	わからない	5.8%	何も必要がない	0.8%	<p>前問で、自分でしている取組として「大雨を想定した防災訓練への参加」と答えた人は約1割に留まったが、必要な行政の支援としては「学校や自治会での防災学習会・出前講座の実施(52.1%)」「防災訓練の実施(48.8%)」など、多様な防災学習を行う機会の提供を求められている。</p> <p>今後も現在実施している防災学習のさらなる充実を図り、総合治水の自主的な取組や防災意識の醸成につなげていく必要がある。</p>										
区分	割合																											
学校や自治会での防災学習会・出前講座の実施	52.1%																											
防災訓練の実施	48.8%																											
雨水貯留タンク設置等に対する助成制度	39.8%																											
イベントなどでの啓発ポスター掲示やチラシの配布	37.3%																											
行政機関(庁舎)などにある貯留施設の見学会	20.3%																											
わからない	5.8%																											
何も必要がない	0.8%																											
<p>行政が行っている取組の認知度</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>河川・ダムの整備</td> <td>75.8%</td> </tr> <tr> <td>下水道の整備</td> <td>63.5%</td> </tr> <tr> <td>洪水ハザードマップの周知</td> <td>60.5%</td> </tr> <tr> <td>避難場所などの案内表示板の設置</td> <td>46.6%</td> </tr> <tr> <td>雨水を地面に浸み込みやすくする透水性舗装や緑地の整備</td> <td>42.6%</td> </tr> <tr> <td>山の手入れや植林による森林の保水力の向上</td> <td>41.1%</td> </tr> <tr> <td>河川水位・カメラ画像や「ひょうご防災ネット」等の避難に必要な情報の周知</td> <td>35.2%</td> </tr> <tr> <td>公共施設や農業用ため池を利用した大雨の一時貯留施設の整備</td> <td>34.6%</td> </tr> <tr> <td>土地の開発業者への調整池設置指導</td> <td>18.8%</td> </tr> <tr> <td>防災リーダーの育成や「手作りのハザードマップ」の作成</td> <td>17.5%</td> </tr> <tr> <td>洪水時でも浸水しないための公共施設(病院等)のかさ上げ等の工事</td> <td>10.3%</td> </tr> <tr> <td>知らない</td> <td>5.6%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	河川・ダムの整備	75.8%	下水道の整備	63.5%	洪水ハザードマップの周知	60.5%	避難場所などの案内表示板の設置	46.6%	雨水を地面に浸み込みやすくする透水性舗装や緑地の整備	42.6%	山の手入れや植林による森林の保水力の向上	41.1%	河川水位・カメラ画像や「ひょうご防災ネット」等の避難に必要な情報の周知	35.2%	公共施設や農業用ため池を利用した大雨の一時貯留施設の整備	34.6%	土地の開発業者への調整池設置指導	18.8%	防災リーダーの育成や「手作りのハザードマップ」の作成	17.5%	洪水時でも浸水しないための公共施設(病院等)のかさ上げ等の工事	10.3%	知らない	5.6%	<p>従来から行われてきた「河川・ダムの整備(75.8%)」「下水道の整備(63.5%)」といったハード対策が多くなっている。ソフト対策としては「洪水ハザードマップの周知(60.5%)」が6割を超えたほか、「避難場所などの案内表示板の設置(46.6%)」が続き、避難の参考になるものが上位となった。</p> <p>同じく避難に必要な情報である河川水位・カメラ画像やひょうご防災ネットの周知をはじめ、その他の取組について、今後も取組状況等を広く周知していく必要がある。</p>
区分	割合																											
河川・ダムの整備	75.8%																											
下水道の整備	63.5%																											
洪水ハザードマップの周知	60.5%																											
避難場所などの案内表示板の設置	46.6%																											
雨水を地面に浸み込みやすくする透水性舗装や緑地の整備	42.6%																											
山の手入れや植林による森林の保水力の向上	41.1%																											
河川水位・カメラ画像や「ひょうご防災ネット」等の避難に必要な情報の周知	35.2%																											
公共施設や農業用ため池を利用した大雨の一時貯留施設の整備	34.6%																											
土地の開発業者への調整池設置指導	18.8%																											
防災リーダーの育成や「手作りのハザードマップ」の作成	17.5%																											
洪水時でも浸水しないための公共施設(病院等)のかさ上げ等の工事	10.3%																											
知らない	5.6%																											

項目	アンケート結果(主な意見)	結果の考察																				
農業・農村の多面的機能の認知度	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="352 248 906 293">区分</th> <th data-bbox="906 248 1002 293">割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="352 293 906 338">ため池や田は、雨水を一時的にためて洪水を防ぐ</td> <td data-bbox="906 293 1002 338">72.2%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 338 906 383">田や水路、ため池は多くの生きものすみかになっている</td> <td data-bbox="906 338 1002 383">70.6%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 383 906 427">美しい農村景観やため池等の水辺は癒しや、やすらぎの場を提供する</td> <td data-bbox="906 383 1002 427">50.9%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 427 906 472">田は、水面からの蒸発により周辺の気温を下げる</td> <td data-bbox="906 427 1002 472">46.3%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 472 906 517">農村の自然の恵みに感謝する祭りなどは文化を伝承する働きがある</td> <td data-bbox="906 472 1002 517">45.1%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 517 906 562">農村は動植物や自然に触れるなど体験学習の場になっている</td> <td data-bbox="906 517 1002 562">44.9%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 562 906 607">田の水は、地下にしみこみ地下水や川の水をうるおす</td> <td data-bbox="906 562 1002 607">39.9%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 607 906 651">田で米を作ることは、土砂崩れなどを防ぐ</td> <td data-bbox="906 607 1002 651">25.6%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 651 906 696">知らない</td> <td data-bbox="906 651 1002 696">6.8%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	ため池や田は、雨水を一時的にためて洪水を防ぐ	72.2%	田や水路、ため池は多くの生きものすみかになっている	70.6%	美しい農村景観やため池等の水辺は癒しや、やすらぎの場を提供する	50.9%	田は、水面からの蒸発により周辺の気温を下げる	46.3%	農村の自然の恵みに感謝する祭りなどは文化を伝承する働きがある	45.1%	農村は動植物や自然に触れるなど体験学習の場になっている	44.9%	田の水は、地下にしみこみ地下水や川の水をうるおす	39.9%	田で米を作ることは、土砂崩れなどを防ぐ	25.6%	知らない	6.8%	<p>「ため池や田は、雨水を一時的にためて洪水を防ぐ(72.2%)」、「田や水路、ため池は多くの生きものすみかになっている(70.6%)」を知っていると答えた人が7割を超えている。</p> <p>農業・農村がもつ多面的機能のうち災害防止・自然環境保全の機能について多くの県民に浸透していることがうかがえる。</p> <p>その他5項目についても4～5割程度と、一定の認知がされている。</p> <p>一方、「農業・農村の多面的機能」という言葉を知っている割合は33.9%に留まり、今後も多面的機能の内容と併せて、言葉についても広く県民に啓発する必要がある。</p>
	区分	割合																				
	ため池や田は、雨水を一時的にためて洪水を防ぐ	72.2%																				
	田や水路、ため池は多くの生きものすみかになっている	70.6%																				
	美しい農村景観やため池等の水辺は癒しや、やすらぎの場を提供する	50.9%																				
	田は、水面からの蒸発により周辺の気温を下げる	46.3%																				
	農村の自然の恵みに感謝する祭りなどは文化を伝承する働きがある	45.1%																				
	農村は動植物や自然に触れるなど体験学習の場になっている	44.9%																				
	田の水は、地下にしみこみ地下水や川の水をうるおす	39.9%																				
	田で米を作ることは、土砂崩れなどを防ぐ	25.6%																				
知らない	6.8%																					
<p>【「農業・農村の多面的機能」という言葉を知っているか】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="352 801 884 846">区分</th> <th data-bbox="884 801 1002 846">割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="352 846 884 891">知っている</td> <td data-bbox="884 846 1002 891">33.9%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 891 884 936">知らない</td> <td data-bbox="884 891 1002 936">66.1%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	知っている	33.9%	知らない	66.1%																
区分	割合																					
知っている	33.9%																					
知らない	66.1%																					

3 調査結果

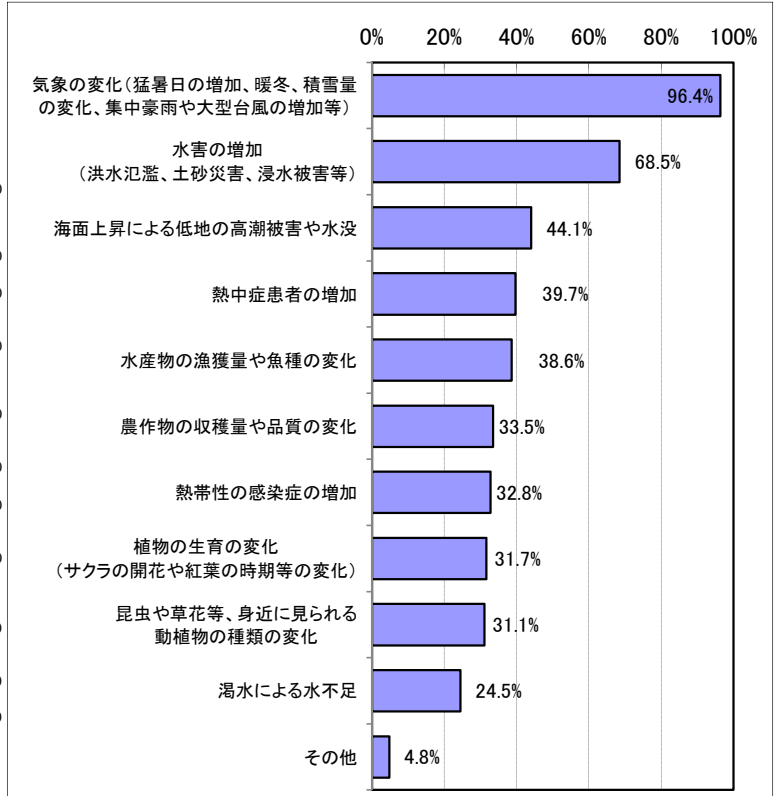
Q1 あなたは、地球温暖化の影響はすでに現れていると思いますか。

- | | |
|---------------------|-------|
| (1) そう思う | 66.1% |
| (2) どちらかといえば、そう思う | 28.2% |
| (3) どちらかといえば、そう思わない | 3.4% |
| (4) 全くそう思わない | 1.0% |
| (5) わからない | 1.3% |



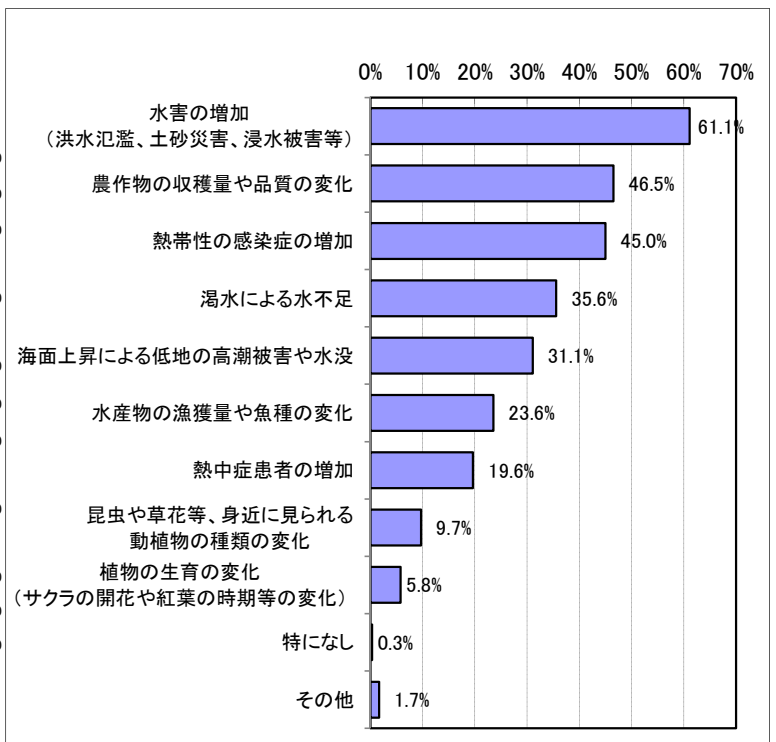
Q2 Q1で「そう思う」または「どちらかといえば、そう思う」と回答された方にお伺いします。どのような事象から地球温暖化の影響が現われていると思いますか。(11項目からいくつでも選択)

- | | |
|---|-------|
| (1) 気象の変化(猛暑日の増加、暖冬、積雪量の変化、集中豪雨や大型台風の増加等) | 96.4% |
| (2) 熱中症患者の増加 | 39.7% |
| (3) 熱帯性の感染症の増加 | 32.8% |
| (4) 水害の増加(洪水氾濫、土砂災害、浸水被害等) | 68.5% |
| (5) 海面上昇による低地の高潮被害や水没 | 44.1% |
| (6) 農作物の収穫量や品質の変化 | 33.5% |
| (7) 水産物の漁獲量や魚種の変化 | 38.6% |
| (8) 昆虫や草花等、身近に見られる動植物の種類の変化 | 31.1% |
| (9) 植物の生育の変化(サクラの開花や紅葉の時期等の変化) | 31.7% |
| (10) 渇水による水不足 | 24.5% |
| (11) その他 | 4.8% |



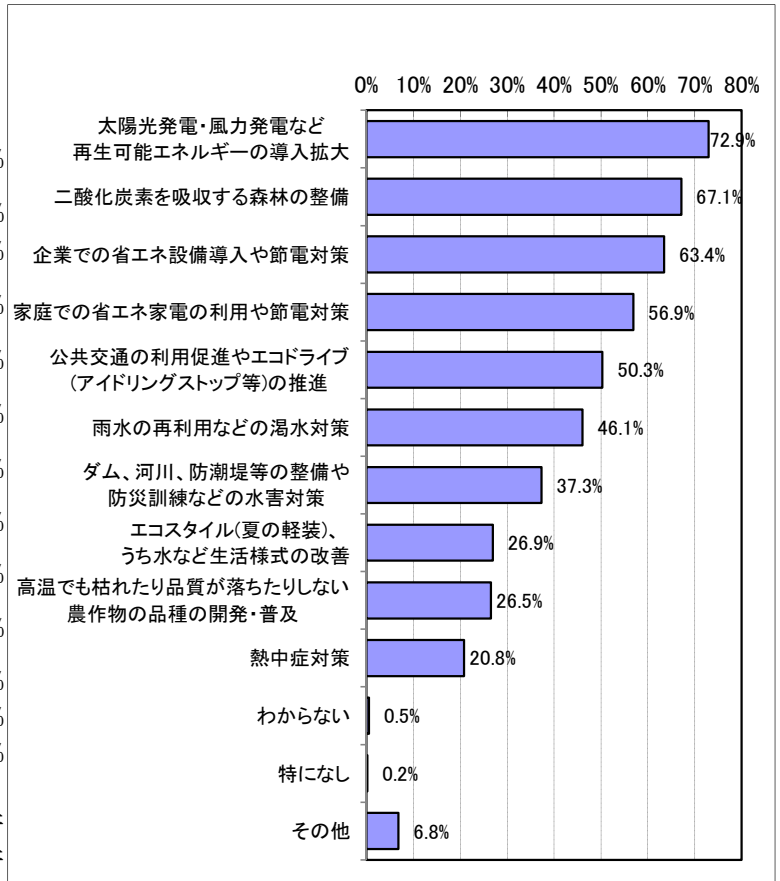
Q3 将来、次のような現象が大きく現れた場合、あなたはどの現象が心配ですか。(11項目から3つまで選択)

- | | |
|--------------------------------|-------|
| (1) 熱中症患者の増加 | 19.6% |
| (2) 熱帯性の感染症の増加 | 45.0% |
| (3) 水害の増加(洪水氾濫、土砂災害、浸水被害等) | 61.1% |
| (4) 海面上昇による低地の高潮被害や水没 | 31.1% |
| (5) 農作物の収穫量や品質の変化 | 46.5% |
| (6) 水産物の漁獲量や魚種の変化 | 23.6% |
| (7) 昆虫や草花等、身近に見られる動植物の種類の変化 | 9.7% |
| (8) 植物の生育の変化(サクラの開花や紅葉の時期等の変化) | 5.8% |
| (9) 渇水による水不足 | 35.6% |
| (10) 特になし | 0.3% |
| (11) その他 | 1.7% |



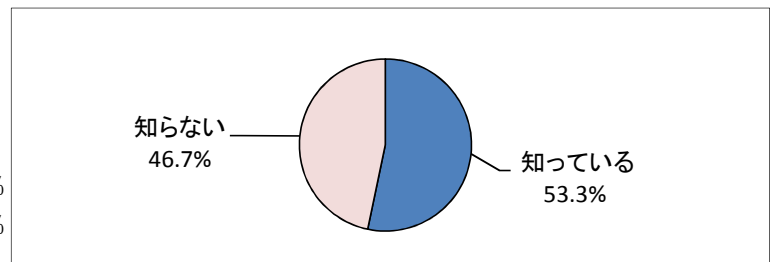
Q4 地球温暖化対策の中で重要だと思うものを次の中からお選びください。(13項目からいくつでも選択)

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| (1) 太陽光発電・風力発電など再生可能エネルギーの導入拡大 | 72.9% |
| (2) 企業での省エネ設備導入や節電対策 | 63.4% |
| (3) 家庭での省エネ家電の利用や節電対策 | 56.9% |
| (4) 公共交通の利用促進やエコドライブ(アイドリングストップ等)の推進 | 50.3% |
| (5) 二酸化炭素を吸収する森林の整備 | 67.1% |
| (6) 高温でも枯れたり品質が落ちたりしない農作物の品種の開発・普及 | 26.5% |
| (7) 雨水の再利用などの渇水対策 | 46.1% |
| (8) ダム、河川、防潮堤等の整備や防災訓練などの水害対策 | 37.3% |
| (9) 熱中症対策 | 20.8% |
| (10) エコスタイル(夏の軽装)、うち水など生活様式の改善 | 26.9% |
| (11) 特になし | 0.2% |
| (12) わからない | 0.5% |
| (13) その他 | 6.8% |
| ※「その他」の具体的な内容 | |
| ・国際的な協力 | 14件 |
| など | 103件 |



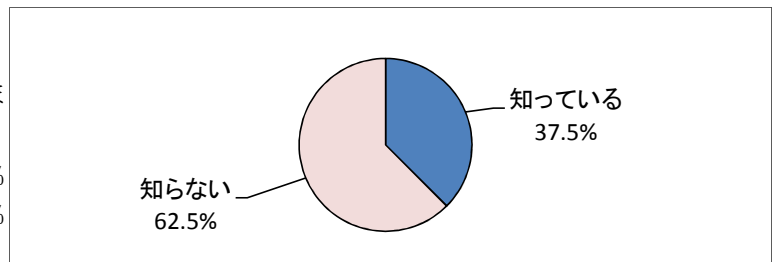
Q5 地球温暖化対策のうち、温暖化の進行を食い止めるために二酸化炭素等の温室効果ガスの排出を抑制する対策(例えば、Q4の選択肢の1から5までの対策)を「緩和策」と言いますが、知っていますか。

- | | |
|-----------|-------|
| (1) 知っている | 53.3% |
| (2) 知らない | 46.7% |



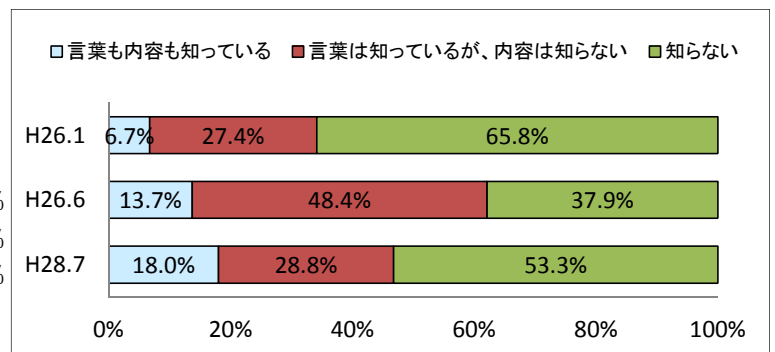
Q6 地球温暖化対策のうち、温暖化の影響にあらかじめ備えておく対策(例えば、Q4の選択肢6から10までの対策)を「適応策」と言いますが、知っていますか。

- | | |
|-----------|-------|
| (1) 知っている | 37.5% |
| (2) 知らない | 62.5% |



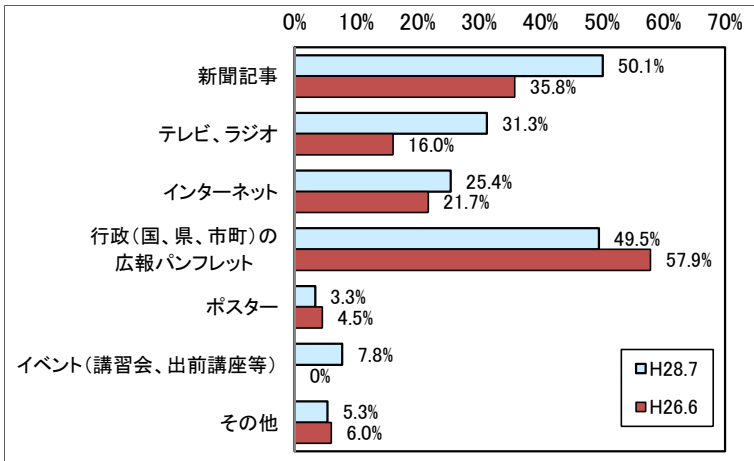
Q7 次に総合治水についてお聞きします。県では平成24年に「総合治水条例」を制定しました。「総合治水」とは、どんな取組か知っていますか。次の中からお選びください。

- | | |
|-----------------------|-------|
| (1) 言葉も内容も知っている | 18.0% |
| (2) 言葉は知っているが、内容は知らない | 28.8% |
| (3) 知らない | 53.3% |



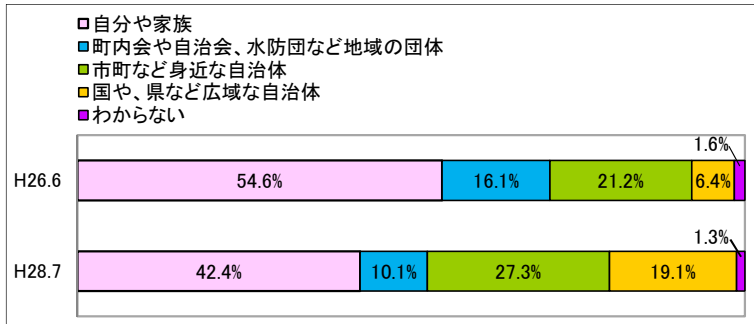
Q8 Q7で「言葉も内容も知っている」「言葉は知っているが、内容は知らない」と回答された方にお聞きします。「総合治水」を何で知りましたか。次の中からお選びください。(7項目からいくつでも選択)

- (1) 新聞記事 50.1%
- (2) テレビ、ラジオ 31.3%
- (3) インターネット 25.4%
- (4) 行政(国、県、市町)の広報パンフレット 49.5%
- (5) ポスター 3.3%
- (6) イベント(講習会、出前講座等) 7.8%
- (7) その他 5.3%



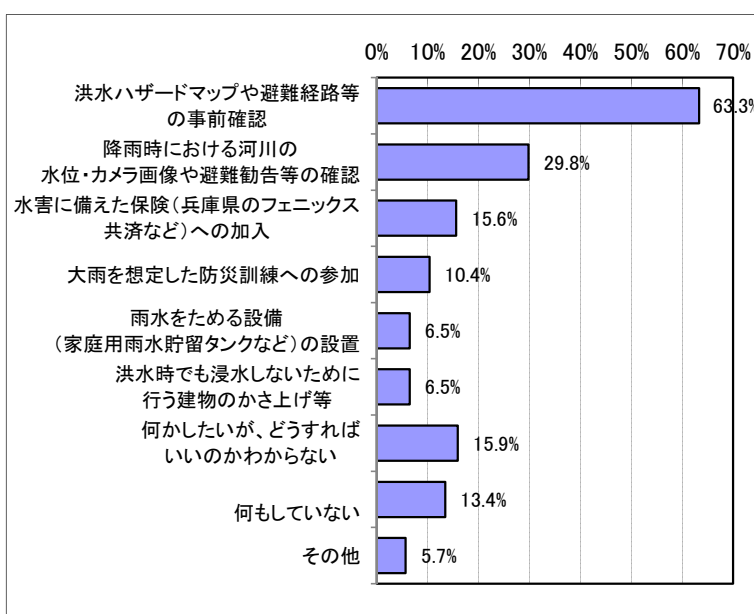
Q9 水害に備え、自分や家族を守るために、誰が最も主体的に活動すべきだと考えますか。次の中からお選びください。(5項目から1つ選択)

- (1) 自分や家族 42.4%
- (2) 町内会や自治会、水防団など地域の団体 10.1%
- (3) 市町など身近な自治体 27.3%
- (4) 国や、県など広域な自治体 19.1%
- (5) わからない 1.3%



Q10 水害に備え、あなたがしている取組は何ですか？次の中からお選びください。(9項目からいくつでも選択)

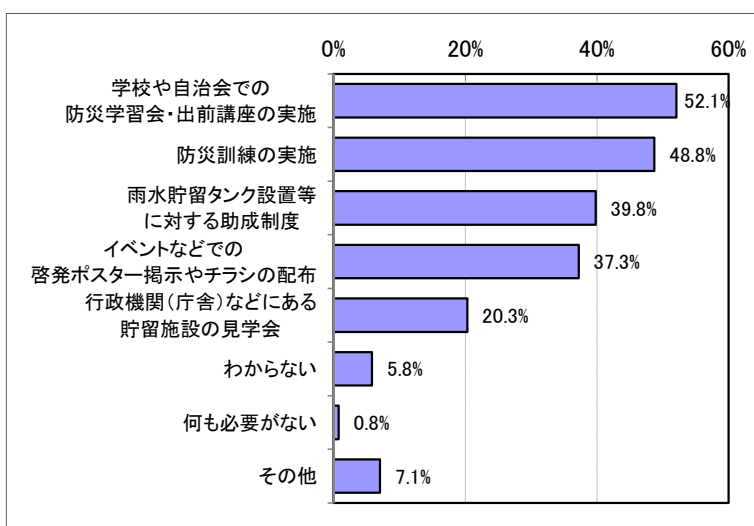
- (1) 洪水ハザードマップや避難経路等の事前確認 63.3%
- (2) 降雨時における河川の水位・カメラ画像や避難勧告等の確認 29.8%
- (3) 雨水をためる設備(家庭用雨水貯留タンクなど)の設置 6.5%
- (4) 大雨を想定した防災訓練への参加 10.4%
- (5) 洪水時でも浸水しないために行う建物のかさ上げ等 6.5%
- (6) 水害に備えた保険(兵庫県のフェニックス共済など)への加入 15.6%
- (7) 何かしたいが、どうすればいいのかわからない 15.9%
- (8) 何もしていない 13.4%
- (9) その他 5.7%



※「その他」の具体的な内容
 ・防災用品の準備 8件
 など 91件

Q11 みなさんが水害への備えを進めるためには、行政によるどのような支援が必要だと思いますか。次の中からお選びください。(8項目からいくつでも選択)

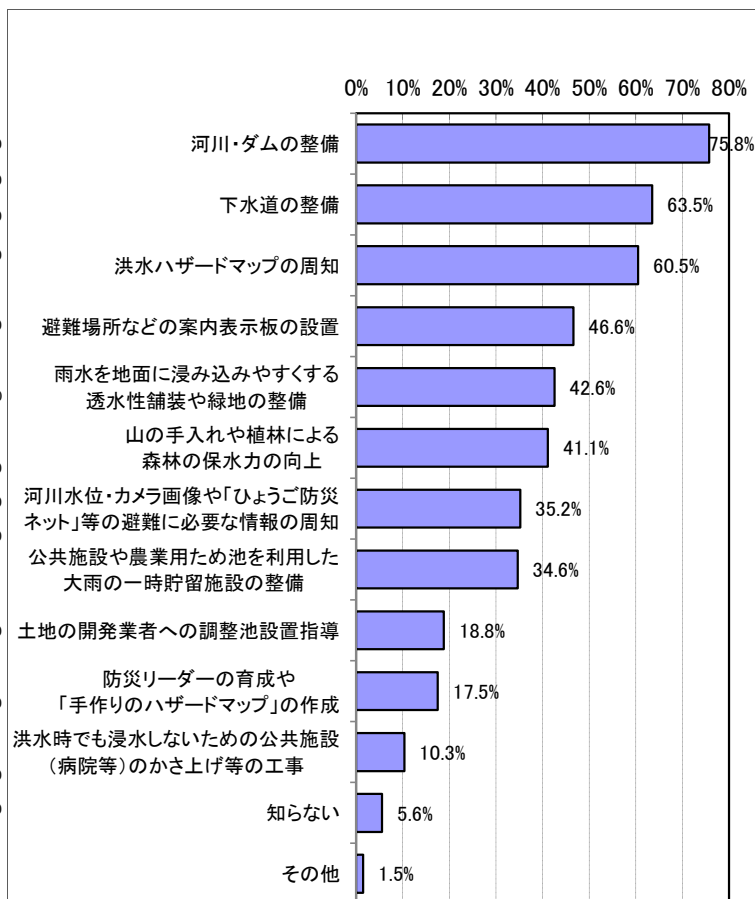
- (1) 防災訓練の実施 48.8%
- (2) 学校や自治会での防災学習会・出前講座の実施 52.1%
- (3) イベントなどでの啓発ポスター掲示やチラシの配布 37.3%
- (4) 行政機関(庁舎)などにある貯留施設の見学会 20.3%
- (5) 雨水貯留タンク設置等に対する助成制度 39.8%
- (6) わからない 5.8%
- (7) 何も必要がない 0.8%
- (8) その他 7.1%



※「その他」の具体的な内容
 ・防災情報の周知 16件
 など 91件

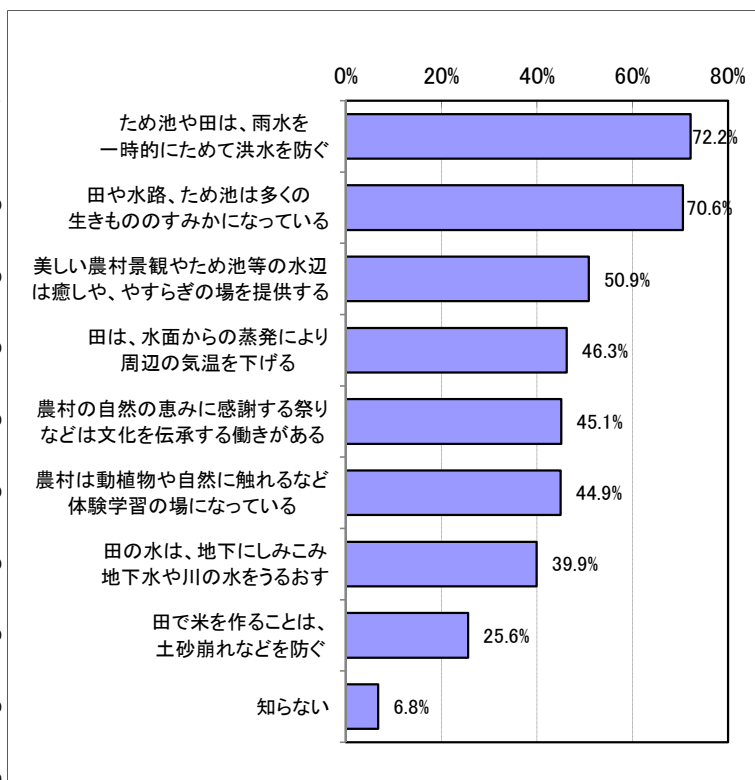
Q12 水害に備え、行政は下記のような取組を行っています。この中で、知っているものをお選びください。(13項目からいくつでも選択)

(1) 河川・ダムを整備	75.8%
(2) 下水道を整備	63.5%
(3) 土地の開発業者への調整池設置指導	18.8%
(4) 公共施設や農業用ため池を利用した大雨の一時貯留施設の整備	34.6%
(5) 雨水を地面にしみ込みやすくする透水性舗装や緑地の整備	42.6%
(6) 山の手入れや植林による森林の保水力の向上	41.1%
(7) 洪水ハザードマップの周知	60.5%
(8) 避難場所などの案内表示板の設置	46.6%
(9) 河川水位・カメラ画像や「ひょうご防災ネット」等の避難に必要な情報の周知	35.2%
(10) 防災リーダーの育成や「手作りのハザードマップ」の作成	17.5%
(11) 洪水時でも浸水しないための公共施設(病院等)のかさ上げ等の工事	10.3%
(12) 知らない	5.6%
(13) その他	1.5%



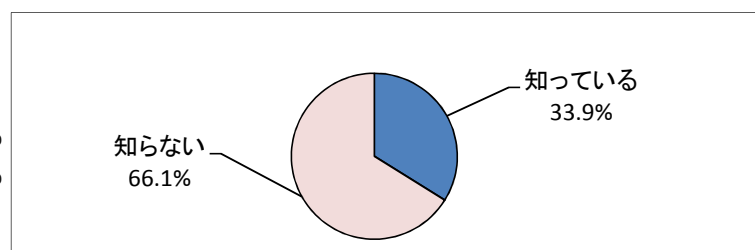
Q13 農業・農村は「食」を支えているだけでなく、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等様々な働きを持っています。このような様々な働きのうち、あなたが知っているものを次の中からお選びください。(9項目からいくつでも選択)

(1) ため池や田は、雨水を一時的にためて洪水を防ぐ	72.2%
(2) 田は、水面からの蒸発により周辺の気温を下げる	46.3%
(3) 田の水は、地下にしみこみ地下水や川の水をうるおす	39.9%
(4) 田で米を作ることは、土砂崩れなどを防ぐ	25.6%
(5) 田や水路、ため池は多くの生きものすみかになっている	70.6%
(6) 農村は動植物や自然に触れるなど体験学習の場になっている	44.9%
(7) 美しい農村景観やため池等の水辺は癒しや、やすらぎの場を提供する	50.9%
(8) 農村の自然の恵みに感謝する祭りなどは文化を伝承する働きがある	45.1%
(9) 知らない	6.8%



Q14 Q13のような働きを「農業・農村の多面的機能」と言いますが、知っていますか。

(1) 知っている	33.9%
(2) 知らない	66.1%



【問い合わせ先】

企画県民部広報課広聴室 (TEL078-362-3021)